

(株)新井組 圏央道大生郷地区改良(2)他工事

やまもと ゆうが
将来の建設業界を担う若き技術者 山元 悠河

丁寧な仕事ぶりや安全管理に定評があり、工事成績優秀企業にも認定されている(株)新井組。

そこにH29年4月、インフラ整備最先端の建設業に携わりたいと入社してきた山元悠河さんがいる。

入社後1ヶ月半の社内研修と東京支店勤務を経て、現在は茨城県常総市で行われている圏央道工事の現場で活躍する19歳、駆け出しの若手技術者である。



きっかけは高校の授業

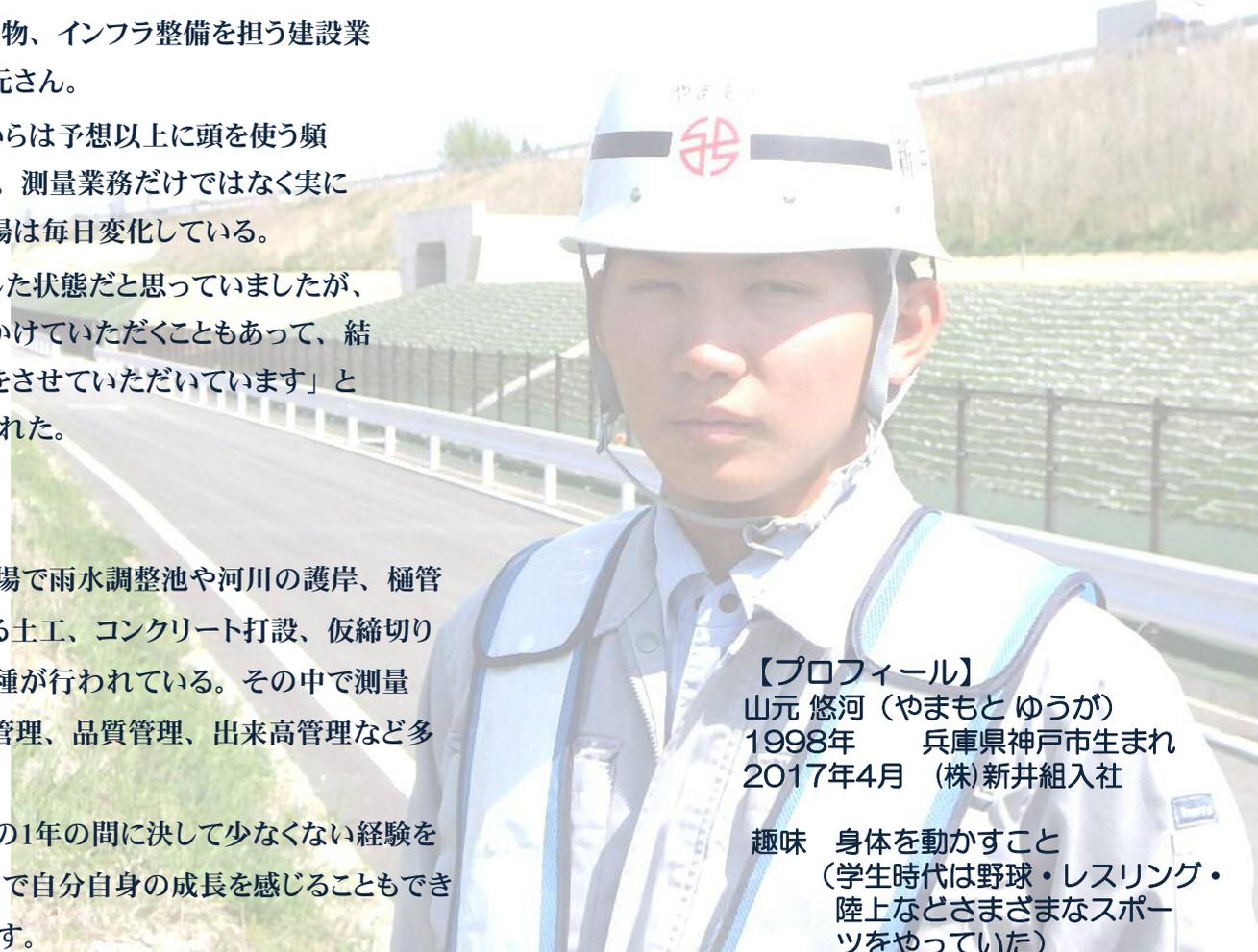
高校時代に受けた土木関連、中でも特に測量の授業に興味を持ち、そこから繋がる土木構造物、インフラ整備を担う建設業に就きたいと考えるようになった山元さん。

その夢を叶え実際に入ってみてからは予想以上に頭を使う頻度・仕事が多いと感じているという。測量業務だけではなく実に多種・多様な知識が必要であり現場は毎日変化している。

とはいえ「（現場は）常に緊迫した状態だと思っていましたが、休憩時間などは目上の方から声をかけていただくこともあって、結構なごやかな雰囲気の中でも仕事をさせていただいています」と19歳らしい、はにかむ顔も見せてくれた。

現在は常総市大生郷新田町の現場で雨水調整池や河川の護岸、樋管工事の現場で地盤改良、重機による土工、コンクリート打設、仮締切りのための鋼矢板など多種多様の工種が行われている。その中で測量（丁張、構造物位置出し）、安全管理、品質管理、出来高管理など多種の仕事を行なう山元さん。

時には失敗することもあるが、この1年の間に決して少なくない経験を積み重ね、知識と技量を得ていく中で自分自身の成長を感じることもできた、それはとても嬉しいです、と話す。



【プロフィール】

山元 悠河（やまもと ゆうが）
1998年 兵庫県神戸市生まれ
2017年4月 （株）新井組入社

趣味 身体を動かすこと
（学生時代は野球・レスリング・
陸上などさまざまなスポーツ
をやっていた）

ともに日本の将来を担う一員として



建設業は土木構造物の建設、施工管理を通して日本のインフラ整備の一翼を担っているということをリアルに感じられるという山元さん。

将来はトンネル工事にも携わりたいそうである。

「トンネルといえば人里離れた山の中とっていましたが東京に来てビックリしました。都心のど真ん中に山手トンネルという環状線が走っているんですね。構造を勉強してみて土木技術の高さに更にビックリしました」

「新たにものを創ること、創ったものが将来にわたって残り、社会に貢献できることは大きな魅力です。ともに日本の将来を担う一員として一緒に仕事をしてみませんか?」

と、将来建設業に就くことを考えている学生たちに、最後に熱いエールを送ってくれた。

現在は出身地である関西を離れ、埼玉県草加市の社員寮で暮らしている。この仕事は体力も必要なため普段からランニングや筋トレなどを行い、食事でも栄養バランスを考えなるべく自炊をしているという。

得意料理は唐揚げ。前日に下味のタレを調合し、一晩漬け込むなど本格的でおいしい料理を日々追求している。

関西と関東の言葉の壁に苦勞することもあるが、休日にはショッピングやドライブを楽しんで気分転換を図る一方、資格取得に向けた勉強にも取り組んでいる。上司である山下所長も「チャンスがあれば何にでも挑戦したいという姿勢は頼もしいかぎり。今後のさらなる活躍や成長に期待しています」と嬉しそうに語る。

